

もえるごみ袋増額に関する地域意見交換会結果について

令和4年3月14日
くらし文化部環境課

令和5年7月1日からのもえるごみ袋増額に向け、令和3年10月から12月まで各地域で意見交換会を実施しましたので報告します。

1 実施回数及び参加人数
32回開催、194人参加

2 意見交換会でいただいた主な意見・要望

【ごみ袋増額に関する意見・要望】

① もえるごみ袋増額の主目的が分かりにくい。晴丘センターの建て替えのための基金や財政負担の軽減が目的ではないのか。
② 15円から50円の値上げは高すぎるので段階的に引き上げられないか。
③ 15円から50円でも安い。もっと高くてもよい。
④ 減量目標を立て、期限までに市民が目標を達成できなければ値上げとするべきではないか。
⑤ 8月号広報折込チラシの内容が唐突すぎる。「予定」という記載があり、もう決まっている内容だと市民は思っている。
⑥ 紙おむつや剪定枝など減量困難な品目は増額対象から除外してほしい。
⑦ ごみ袋を増額すると不法投棄が増えるのではないかと心配している。
⑧ 生ごみがごみ袋の4割あるならリサイクルや堆肥化を検討してほしい。
⑨ 市民にのみ負担を強いるのではなく、事業者にも過剰包装など家庭ごみを減らすような商品開発や提供をするよう働きかけてほしい。
⑩ 値上げ後にごみ減量目標を達成したら値下げしてほしい。
⑪ 現在のもえるごみ袋は増額後も使えるのか。買いだめや買い占めが起きるのではと心配している。
⑫ ごみ袋増額以外にごみ減量の方法はなかったのか。
⑬ プラスチック製容器包装やもえないごみの指定袋は値下げしてはどうか。
⑭ ごみ収集車を増台するとカーボンニュートラルの取組に反するのではないか。

- | |
|---|
| ⑮ 市民への動機づけとして、例えば、ごみを持ち込むとポイントが付与され、それが貯まったらごみ袋がもらえるなど、市と市民、民間がWINWINの関係になると、市民も楽しくごみ減量ができるのではないかと。 |
| ⑯ 東海市や碧南市のように一定枚数を無料で配布することはできないか。 |
| ⑰ 目的が「ごみの減量」ではなく「財源確保」と説明した方が市民の理解を得られやすいのではないかと。 |
| ⑱ 市民の意識改革がなければごみは減量できない。値上げによってそれができるのか。 |
| ⑲ 市はみどりを増やす方針であるのに、それにより発生する剪定枝ごみについても値上げするのは矛盾している。 |

【ごみや資源の出し方】

- | |
|---|
| ① プラスチック製容器包装の意味や分別方法がわかりにくいので基準を示してほしい。 |
| ② プラスチック製容器包装だけでなく、プラスチック製品についても分別回収できないか。 |
| ③ 学生など若い世代が分別できていない傾向があるので、学生アパートや大学などをターゲットに啓発してほしい。 |
| ④ 長久手市の戸別回収は効率が悪く回収時間が遅い原因の1つとなっている。拠点回収にすれば時間短縮につながるのではないかと。 |

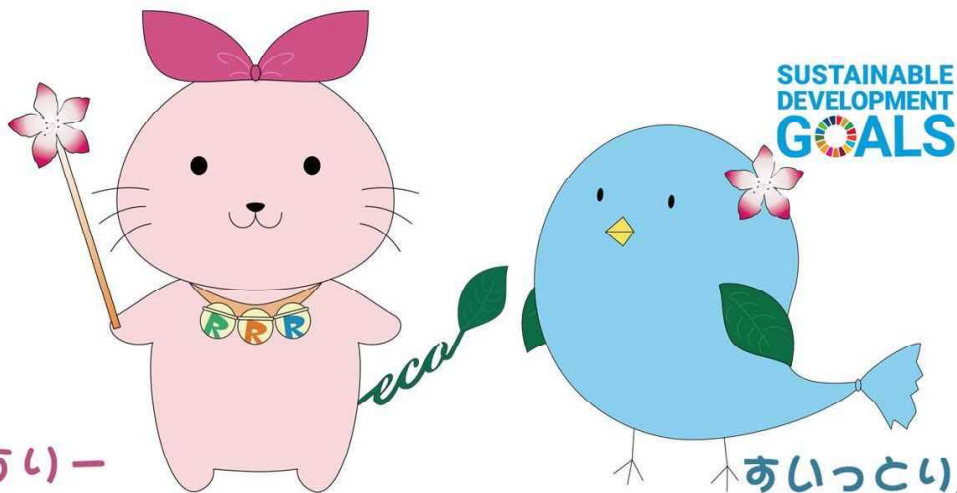
【ごみ袋の仕様】

- | |
|------------------------------------|
| ① ごみ袋を裂けやすいので、丈夫な材質に変更してほしい。 |
| ② プラスチック製容器包装の指定袋のSサイズを作してほしい。 |
| ③ もえるごみ袋Lサイズを34ℓから他市町と同じ45ℓにできないか。 |

3 今後の動き

これまでに実施した地域意見交換会の結果を踏まえ、令和4年第2回定例会（6月議会）に議案を提出できるよう、市としての方向性を検討したいと考えています。

所管事務調査資料 (もえるごみ袋増額に関する 地域意見交換会)



これまでに市が取り組んできたこと

① 分別品目の細分化

- ・ 現在、分別品目はごみ・資源合わせて**23品目**
- ・ 分別品目を増やすことで、これまでごみだったものが資源に

② さまざまな媒体・機会を用いた情報提供

- ・ **市広報、ホームページ、ごみ出し支援アプリ「さんあ〜る」**などによる市民への情報提供
- ・ 市内**全小中学校へのごみ減量出前講座**による環境学習 など

③ ごみ発生抑制のための支援

- ・ **資源とごみ出しカレンダー・ガイドブック**の全戸配布などによる分別方法の紹介
- ・ **生ごみ処理機**などの購入費に対する助成

④ 資源回収拠点施設の運営

- ・ **ながくてエコハウス**を開設(H22)
- ・ **出張ながくてエコハウス**を開設(H29)

・ まずは、長久手市がこれまでにごみの減量に向けてどのような取組を実施してきたのかについて、主なものを4つ紹介させていただきます。

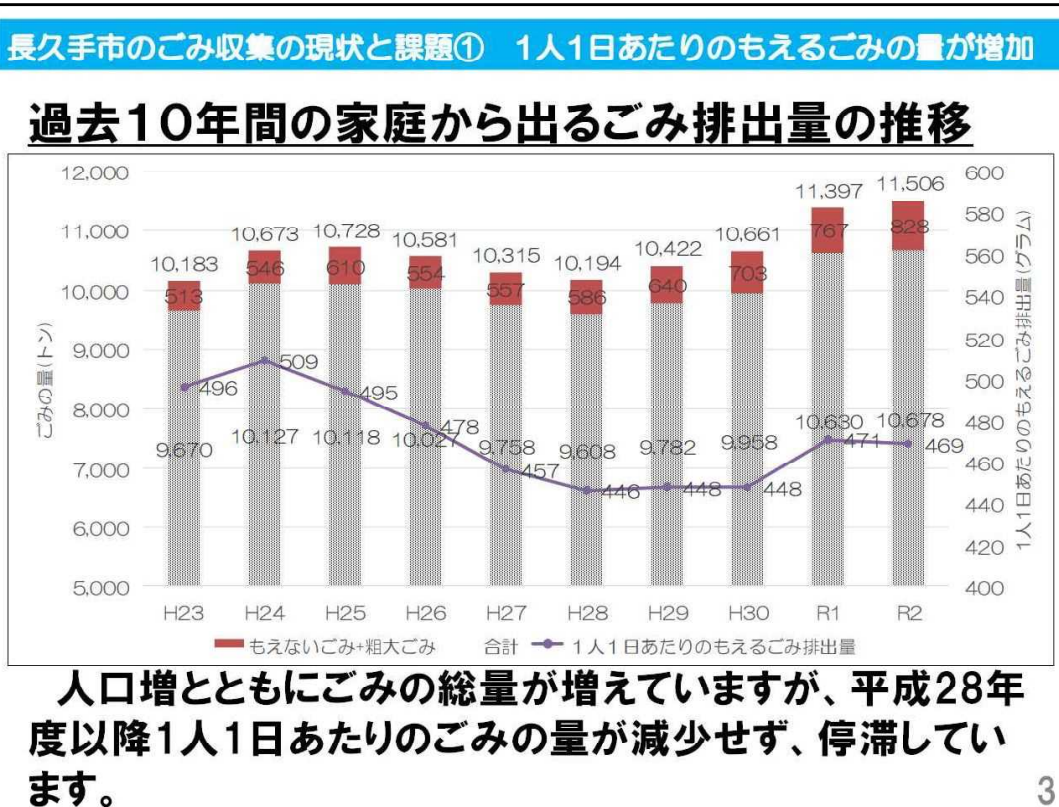
・ 1つ目は、分別品目の細分化です。昔はごみや資源の分別は浸透していませんでしたので、今集めている資源もごみとして集めていましたが、分別品目を増やすことでごみの減量化に取り組んできた結果、ごみや資源の分別は、現在23品目まで増えました。

・ 2つ目は、さまざまな媒体や機会を用いた情報提供です。定期的に市の広報やホームページ、ごみ出し支援アプリ「さんあ〜る」などでごみの減量や分別などについてお知らせしてきました。また、今年度は全小中学校の児童生徒を対象に、「ごみ減量出前講座」を給食の時間に放送室から生放送で各教室にあるモニターに映し出すという方式で各学校3回のシリーズで、1回目は「ごみの分別」、2回目は「晴丘センターでのリチウムイオン電池による発火事故」、3回目は「食品ロス」といったテーマで講座を実施しました。子どもにごみ減量の大切さを伝えるのはもちろん、子どもからおうちの方に伝えてもらうことでさらなる波及効果を期待しています。

・ 3つ目は、ごみ発生抑制のための支援です。毎年、資源とごみの収集カレンダーや分別ガイドブックを作成し、それを全戸配布しています。その中で、ごみの出し方や分別方法などを紹介し、市民の意識を高めるよう努めています。また、ごみ減量のために家庭で簡単にできる生ごみ処理機やコンポストなどの購入費に対する助成も行っています。

・ 4つ目は、資源回収拠点施設の運営です。資源回収やリユース、環境学習の場として、平成22年に市役所の隣にあります「ながくてエコハウス」、平成29年に長湫南部地区の卯塚墓園の中にあります「出張ながくてエコハウス」を開設し、市民の利便性を高める取組を実施してきました。

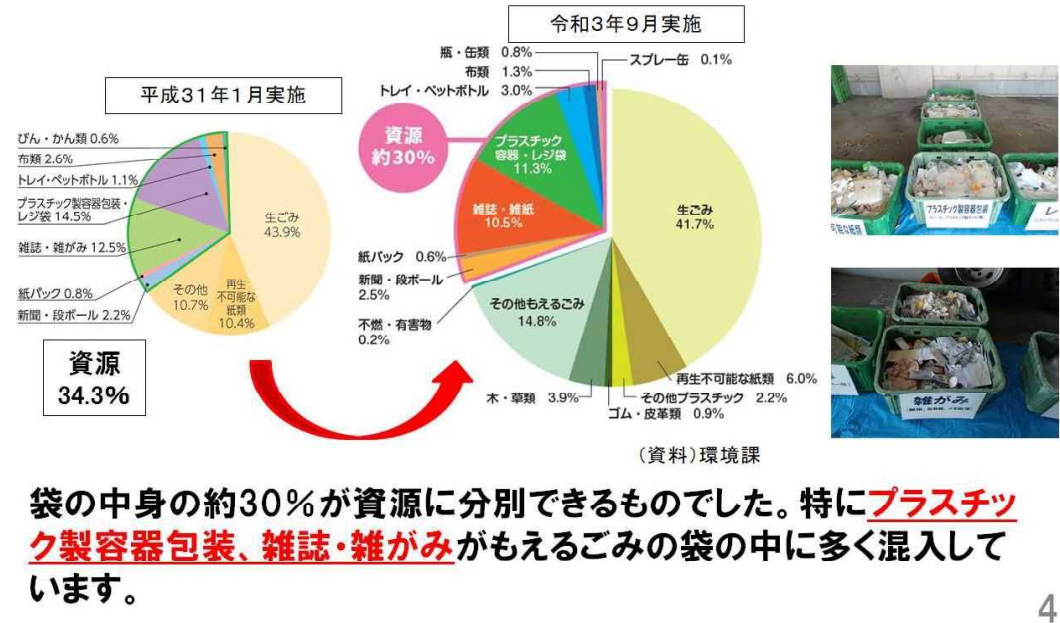
・ 3のスライドをご覧ください。



- ・ 次に、長久手市のごみ収集の現状と課題について、3点説明させていただきます。
- ・ まず1つ目、「1人1日あたりのもえるごみの量が増加している」ことについてです。
- ・ このグラフは長久手市の各家庭からどれだけごみが出ているのか、過去10年間のもえるごみと、もえないごみと粗大ごみを合わせたもの、また各年度の1人1日あたりのもえるごみ排出量を表したものです。
- ・ 棒グラフの下側がもえるごみ、上側がもえないごみと粗大ごみの量を足したもの、折れ線グラフが1人1日あたりのもえるごみ排出量となっています。
- ・ 先程市の取組を説明しましたが、分別品目の細分化や、ながくてエコハウスの開設などの取組を実施してきたことで、平成28年度までは順調にごみの総量も1人1日あたりのもえるごみ排出量も減っていましたが、それ以降は横ばいで減少せず、停滞しています。
- ・ 4のスライドをご覧ください。

長久手市のごみ収集の現状と課題② 資源がもえるごみ袋全体の約30%混入

もえるごみの中身を調査してみました



- ・ 次に2つ目、「資源がもえるごみ袋全体の約30%混入していること」についてです。
- ・ この円グラフは、もえるごみの組成調査の結果を表したものです。
- ・ 組成調査とは、みなさんの家庭から出されるもえるごみ袋をサンプルとして回収し、ごみの品目ごとに重さの割合を求めたもので、長久手市では2年に1回調査を実施しています。今年度も昨年9月に実施し、それが右側の円グラフ、また前回平成31年1月に実施したものを左側に円グラフで示しています。
- ・ 調査の結果、生ごみが約42%など、袋の中の約70%がもえるごみに分類される物でした。しかしながら、それらに混じって、プラスチック製容器包装が11.3%、雑誌・雑がみが10.5%、さらにペットボトルやびん・かん類なども入っており、こういった資源にできるものが太枠で囲んだ部分となっていますが、袋の中身全体の約30%も混入していました。
- ・ ちなみに前回の調査では資源は34.3%ありましたので、若干良くはなっていますが、同じような割合の傾向となっており、まだまだもえるごみ袋に含まれる資源は全体の3割もあって多いという状況です。
- ・ 5のスライドをご覧ください。

長久手市のごみ収集の現状と課題③ 収集時間とごみの散乱

収集時間とごみの散乱

- ・ 1人1日あたりのもえるごみの量や、世帯増によるごみの総量の増加により、**収集時間に遅れが出ています**。遅いところでは午後4時前後の収集になっています。
- ・ ごみを出してから収集時間までの間が長ければ長いほど、カラスや猫などによる**ごみの散乱被害のリスクが高まります**。



5

- ・ 最後に3つ目、「収集時間とごみの散乱」についてです。
- ・ 近年、ごみが増えている影響で収集時間に遅れが出ています。収集が遅い地域では午後4時前後の収集になっており、ご不便をおかけしています。
- ・ また、収集時間が遅いことに関連して、ごみが外に出ている時間が長くなることでカラスや猫によるごみの散乱被害のリスクが高まっています。
- ・ 6のスライドをご覧ください。



- ・ 次に、長久手市のごみ減量目標についてです。
- ・ 長久手市の1人1日あたりの家庭から出るもえるごみ排出量は、2のスライドの折れ線グラフでもありましたとおり、令和2年度で469gとなっています。
- ・ 一方で、令和5年度の目標は395gとしており、現状からは74gの開きがあります。パーセンテージにすると約15%のもえるごみの減量が必要となり、このままでは目標達成は難しい状況となっています。
- ・ ちなみに広報8月号の折込チラシでは令和2年度505g、令和5年度目標431gと記載していますが、これはもえるごみに加えてもえないごみや粗大ごみも含まれた数字となっていましたので、今回はもえるごみのお話しということで、もえるごみのみの数字とさせていただきます。
- ・ 7のスライドをご覧ください。

ごみ袋増額の概要

こうした現状と課題から、全市を挙げて「ごみの減量」に取り組むため、**もえるごみ袋の価格を増額する**という検討を始めました。

【実施予定時期】 **令和5年7月1日**から

【検討している金額】

《令和5年6月30日まで》

種類	サイズ	袋1枚の価格
もえるごみ	L34ℓ	15円
	S23ℓ	10円
	SS17ℓ	8円
プラスチック製容器包装 45ℓ		15円
もえないごみ	L34ℓ	20円
	S19ℓ	15円



《令和5年7月1日から》

種類	サイズ	袋1枚の価格
もえるごみ	L34ℓ	50円
	S23ℓ	30円
	SS17ℓ	20円
プラスチック製容器包装 45ℓ		15円
もえないごみ	L34ℓ	20円
	S19ℓ	15円

7

- ・ ここまでお話ししてきました現状と課題を踏まえ、全市を挙げて「ごみの減量」に取り組むという目的のもと、環境省からもごみ減量や資源分別の促進に効果があるとされている1つの取組として、「もえるごみ袋の価格を増額する」という検討を長久手市では始めました。
- ・ 実施時期は令和5年7月1日からを考えています。
- ・ 金額については、市民のみなさまにもえるごみの減量や資源への分別行動をとっていただくために、プラスチック製容器包装やもえないごみの指定袋の価格は据え置きとさせていただき、もえるごみ袋のみの価格改定としたいと考えています。具体的には、Lサイズを1枚15円から50円、Sサイズを1枚10円から30円、SSサイズを1枚8円から20円を考えています。
- ・ 長久手市では、市民のみなさまにごみや資源の指定袋を買っていただくことでごみ処理手数料を支払っていただく方式を昔からとっており、それをごみ処理の有料化と言いますが、その手数料を条例で定めています。今回はその条例を改正することで価格を改定したいと考えています。
- ・ 8のスライドをご覧ください。

ごみ処理の有料化とは

ごみを出す人が出す量に応じて、ごみの収集運搬やごみ袋製作に係る**費用の一部を手数料として負担していただく制度**。

全国の6割超、県内の約4割の市町村で既に導入されており、長久手市もごみ処理有料化を導入しています。

隣の瀬戸市や尾張旭市は有料化未導入ですが、瀬戸市は有料化の検討を始めました。

【長久手市方式(ごみ処理の有料化)】

市指定ごみ袋の価格 = ごみ処理手数料
(※市の収入になるもの)

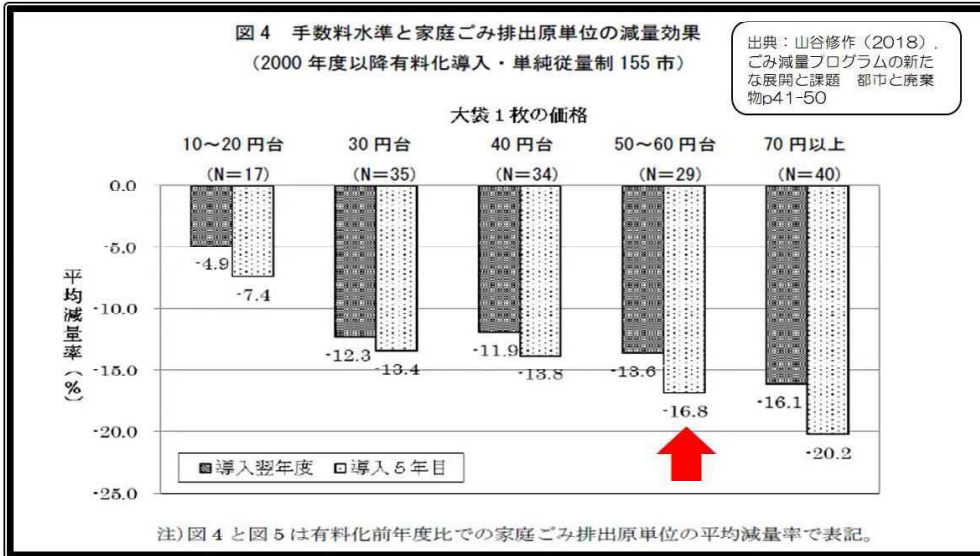
【瀬戸市・尾張旭市方式(市場価格)】

市指定ごみ袋の価格 = 小売店の仕入価格 + 小売店の利益等
(※市の収入にはならず、小売店の利益になるもの)

- ・ ごみ処理の有料化をもう少し詳しく説明しますと、ごみ処理有料化とは、ごみを出す人が出す量に応じて、ごみの収集運搬やごみ袋製作に係る費用の一部を手数料として負担していただく制度のことで、具体的にはごみ袋を買っていただくことがそれに当たります。
- ・ 瀬戸市や尾張旭市をはじめ、有料化をまだ導入していない市町村は「市場価格」といって、市民にごみ袋を買っていただいても市に収入はなく、価格は小売店の仕入価格と利益の合計金額となっており、店によって価格が違います。一方、長久手市は有料化により条例で価格を定め、ごみ袋全額が市の収入となっており、どの店で買っても同じ価格となっています。
- ・ 今回、長久手市はごみ処理有料化は実施済みですが、その手数料を増額することによってごみの減量を図る取組となります。
- ・ 9のスライドをご覧ください。

もえるごみ袋の価格設定の根拠

もえるごみ袋Lサイズを1枚50円にする理由



➡ **1枚50円以上なら導入5年後には長久手市が目標としている15%以上のごみ減量効果があります。**

9

- ・ 次に、もえるごみ袋の価格設定の根拠です。
- ・ これは、もえるごみ袋のLサイズを1枚いくらにしたらごみの減量率はどのくらいになるかを、実際にごみ袋の値上げを実施した自治体の例から研究されたものです。棒グラフの左側は導入初年度、右側は導入5年後の減量率となっています。いずれも導入初年度よりも5年後の方が減量率が高くなっており、導入後も安定してごみが減量していくことがわかります。
- ・ また価格帯を見ると、1枚50円以上とすればごみ減量率を目標としている15%減量の達成が期待されるということから、今回1枚50円に設定したいと考えています。
- ・ 10のスライドをご覧ください。

愛知県内の状況とごみ減量率			
【近隣市町の状況】			
市町村名	現状のもえるごみ袋 Lサイズ1枚の価格	自治体としての方針	リサイクル率 (令和元年度)
瀬戸市	15円程度(市場価格)	昨年3月の審議会で一般廃棄物処理費用の有料化の推進を早期に図るべき」との答申を受けて値上げの検討を始め、昨年11月に地域意見交換会の実施、今年の3月議会で議案を提出予定。	13.9%
尾張旭市	15円程度(市場価格)	現時点では値上げの予定なし	20.9%
日進市	15円(有料化)	現時点では値上げの予定なし	24.4%
みよし市	15円(有料化)	現時点では値上げの予定なし	18.7%
東郷町	15円(有料化)	現時点では値上げの予定なし	16.7%
豊明市	15円程度(市場価格)	現時点では値上げの予定なし	21.3%

※ 長久手市のリサイクル率は17.4%

10

- ・ 次に、「愛知県内の状況とごみ減量率」です。
- ・ まずは近隣市町の状況になります。
- ・ 一番上の瀬戸市は、昨年3月の審議会で一般廃棄物処理費用の有料化の推進を早期に図るべき」と答申を受けています。その後、ごみ処理の有料化に向けて事務を進めており、昨年11月に地域意見交換会を実施し、今年の3月議会で議案を提出されています。
- ・ その他近隣では尾張旭市・日進市・みよし市・東郷町・豊明市など調査しましたが、現時点では値上げの予定はないとのことです。
- ・ 11のスライドをご覧ください。

愛知県内の状況とごみ減量率

【直近10年間でごみ処理を有料化した市町村】

市町村名	増額実施時期	ごみ袋1枚の価格	ごみ減量率
常滑市	平成24年10月	15円程度→50円	20.0%(H23~R1)
知多市	平成29年4月	15円程度→50円	15.9%(H28~R1)
田原市	平成30年2月	15円程度→22.5円	7.8%(H29~R1)
東浦町	平成31年4月	15円程度→45円	13.0%(H30~R2)
半田市	令和3年4月	15円程度→50円	25.9%(前年同月比)
南知多町	令和3年4月	15円程度→50円	31.0%(前年同月比)
美浜町	令和3年4月	15円程度→50円	30.4%(前年同月比)
武豊町	令和3年4月	15円程度→50円	16.6%(前年同月比)
阿久比町	令和3年4月	15円程度→50円	19.4%(前年同月比)

11

・ 次に直近10年間でごみ処理を有料化した県内の市町村を調査しました。ごみ袋1枚の価格は値上げ前はこの表のどの市町も本市と同程度の1枚15円程度だったのが、平成24年に常滑市がごみ袋を1枚50円としており、平成29年に知多市、平成30年に田原市、平成31年に東浦町と次々に有料化を実施しています。最近では、半田市をはじめ5市町が今年4月に一斉にごみ袋1枚50円としており、減量率は約16%から約31%となっています。

・ この表のうち、下から6市町の東浦町・半田市・南知多町・美浜町・武豊町・阿久比町には意見交換会前の昨年9月に実際に訪問し、担当者に値上げ前と後でどう変わったかなどの状況を聞いてきています。

・ これまでの意見交換会で南知多町と美浜町のごみ減量率30%以上と他市町と比較して高い理由は何か、というご質問がありました。南知多町と美浜町は、ごみ袋値上げまで分別収集していなかったプラスチック製容器包装の分別収集を値上げと同時に開始したことが1番大きな理由で減量率が高くなっています。武豊町や阿久比町は長久手市と同じ分別区分なので参考になるかと思います。また、ごみ減量率が高いのはわかるが、資源の収集量はどう変わったかについても質問がありました。実際に訪問した知多の6市町に聞いてきたところ、古紙やプラスチック製容器包装の回収量は増加しており、値上げによって市民の分別行動意識が高まったとのことでした。

・ なお、このごみ減量率の結果は、2つ前の9のスライドのグラフの減量率にも合致しているものとなっています。

・ 12のスライドをご覧ください。

ごみ収集に関する課題を解決するための施策

もえるごみ袋増額によって得た財源を活用し、ごみ収集に関する課題解決のための施策に充てる予定です。

【検討している施策の一例】

- ① 資源の回収頻度を増やし、**市民の資源を分別する意識を高めます**。(例: プラ: 隔週→毎週、古紙: 月1回→2回、ペットボトル: 月1回→2回など)
- ② ごみ収集車を増台し、**収集時間の短縮を図ります**。

12

- ・ 次に、ごみ収集に関する課題を解決するための施策です。
- ・ 今回検討しているもえるごみ袋値上げの主たる目的は「ごみの減量」になりますが、せっかく市民にご負担いただいた手数料の増収分については、ごみ減量や資源分別、ごみ収集に関する課題解決のための施策に充て、市民のみなさまに還元していきたいと考えています。
- ・ 現在検討している施策のあくまでも一例ですが、1つ目として市民の資源分別意識を高めるために資源の回収頻度を増やすこと、例えばプラスチック製容器包装は現在2週間に1回の回収ですが、それを毎週回収に、古紙やペットボトルについても現在は月1回の回収ですが、月2回に増やしていきたいと考えています。また2つ目として、先程収集時間が遅くなっている地域があるという課題を挙げましたが、ごみ収集車を増やすことで収集時間の短縮を図って課題を解決していきたいということも考えています。
- ・ 13のスライドをご覧ください。

ごみ処理費用について

ごみ・資源処理に関する経費と手数料収入の関係

	見直し前 【現状】	見直し後 【値上げ後】
ごみ・資源処理に関する経費	約4億円	約5億円
ごみ処理手数料収入	約6,000万円	約1億6,000万円
経費に対する手数料の割合	約15%	約32%

13

- ・ 次に、ごみ処理費用についてです。
- ・ これは、市がごみや資源を処理するのに、市民の皆さまにどれだけの割合を手数料としていただいているかを表したものです。
- ・ まず現状ですが、令和2年度のごみや資源処理に関する経費は約4億円でした。そのうち、ごみ処理手数料(ごみ袋の売り上げのことですが)としては約6,000万円の収入でしたので、経費4億円に対して約15%手数料としていただいています。
- ・ 今回手数料を現在検討している内容で改定させていただくと、収入が約1億円増える見込みで、見直し前の6,000万円と合わせて約1億6000万円となります。また、ご負担いただいた手数料は増収分も含めて、ごみや資源処理に充てますので、支出についても約1億円増える見込みで、見直し前の4億円と合わせて約5億円となります。
- ・ したがって、ごみ処理手数料の改定後は、処理経費5億円に対して約32%、約3分の1を市民のみなさまにご負担としてご協力いただきたいと思います。
- ・ 14のスライドをご覧ください。

ゼロカーボンの取組

ゼロカーボンの取組

2050年までに地球温暖化の要因となっている温室効果ガスの排出「**実質ゼロ**」を目指します。

「ごみを捨てない」ではなく「ごみを出さない・つぐらない」が当たり前になり、それがごみを焼却する際に発生するCO₂の削減につながるよう**市民のライフスタイルの変革**が必要です。



14

- ・ 次に、ゼロカーボンの取組です。
- ・ 長久手市は、第4次環境基本計画において、2050年までに地球温暖化の要因となっている温室効果ガスの排出の「実質ゼロ」を目指す、としていまして、今年1月4日に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。
- ・ 「ごみを捨てない」ではなく、「ごみを出さない・つぐらない」が当たり前になるようにしていただいて、それがごみを焼却する際に発生するCO₂の削減につながるよう、市民のライフスタイルの変革が必要であると考えています。
- ・ もちろん、ごみの減量だけでは温室効果ガス実質ゼロは難しいですが、環境負荷軽減や地球温暖化防止の1つの取組としても進めたいと考えています。
- ・ 15のスライドをご覧ください。

これまでの地域意見交換会で出た主なご意見①

- ① 1枚50円は高すぎる。一気に15円から50円にするのではなく、段階的に上げてほしい。
- ② 減量が難しい紙おむつや剪定枝は値上げの対象外としてほしい。
- ③ 不法投棄の増加を心配している。
- ④ プラスチック製容器包装の出し方があいまいなので、基準を示してほしい。
- ⑤ プラスチック製容器包装の袋が大きいのもう少し小さいサイズを作ってほしい。

15

・ 最後に、説明の中でこれまでの地域意見交換会でいただいたご意見を一部ご紹介しましたが、それ以外にもご意見をたくさん頂戴していますので、主なものを14点紹介させていただきます。

- ・ まずは1つ目、1枚50円は高すぎる。一気に15円から50円にするのではなく、段階的に上げてほしい。
 - ・ 2つ目、減量が難しい紙おむつや剪定枝は値上げの対象外としてほしい。
 - ・ 3つ目、不法投棄の増加を心配している。
 - ・ 4つ目、プラスチック製容器包装の出し方があいまいなので、基準を示してほしい。
 - ・ 5つ目、プラスチック製容器包装の袋が大きいのもう少し小さいサイズを作ってほしい。
- ・ 16のスライドをご覧ください。

これまでの地域意見交換会で出た主なご意見②

- ⑥ ごみ袋値上げした後、余った古いごみ袋はどうなるのか。
- ⑦ ごみ袋が裂けやすいので、丈夫な材質に変えてほしい。
- ⑧ 減量目標を立て、期限までに市民が目標を達成できなければ値上げとするべきではないか。
- ⑨ 家庭系ごみだけではなく、事業系ごみについても減量に取り組んでほしい。
- ⑩ 値上げ後にごみ減量目標を達成したら値下げしてほしい。

16

- ・ 6つ目、ごみ袋値上げした後、余った古いごみ袋はどうなるのか。
 - ・ 7つ目、ごみ袋が裂けやすいので、丈夫な材質に変えてほしい。
 - ・ 8つ目、減量目標を立て、期限までに市民が目標を達成できなければ値上げとするべきではないか。
 - ・ 9つ目、家庭系ごみだけではなく、事業系ごみについても減量に取り組んでほしい。
 - ・ 10個目、値上げ後にごみ減量目標を達成したら値下げしてほしい。
- ・ 17のスライドをご覧ください。

これまでの地域意見交換会で出た主なご意見③

- ⑪ 目的が「ごみの減量」ではなく「財源確保」と説明した方が市民の理解を得られやすいのでは。
- ⑫ 市民の意識改革がなければごみは減量できない。値上げによってそれができるのか。
- ⑬ 長久手市の戸別回収は効率が悪く回収時間が遅い原因の1つとなっている。拠点回収にすれば時間短縮につながるのでは。
- ⑭ プラスチック製容器包装だけでなく、プラスチック製品についても分別回収できないか。

17

- ・ 11個目、目的が「ごみの減量」ではなく「財源確保」と説明した方が市民の理解を得られやすいのでは。
 - ・ 12個目、市民の意識改革がなければごみは減量できない。値上げによってそれができるのか。
 - ・ 13個目、長久手市の戸別回収は効率が悪く回収時間が遅い原因の1つとなっている。拠点回収にすれば時間短縮につながるのでは。
 - ・ 14個目、プラスチック製容器包装だけでなく、プラスチック製品についても分別回収できないか。
- ・ 他にも数多くご意見をいただいておりますが、主なものを紹介させていただきました。今年6月に市議会に議案提出する予定をしていますが、それまでには市民からのご意見に対して、市としての答えを出していきたいと考えています。

最後に・・・

市民1人ひとりの力が大きな力になります！
ごみ減量をみんなで頑張りましょう！



18

- ・ 説明は以上となります。